



環境共生社会を実現する教育を求めて

東洋大学国際共生社会研究センター（オープン・リサーチ・センター）

プロジェクト2 研究員 教授 長濱 元

国際共生社会研究センターにおける4年間の研究活動は究めて発展性に富むものであった。私の所属した第2研究グループは“環境共生理論の体系化”という大きなテーマを掲げたが、それはメンバーの研究分野の多様性から考えても容易なのか、困難なのか当初には全く見当もつかなかった。3年目以降、メンバーの交代と増員があり研究分野がいつそう広がってさらにテーマの取りまとめは難しくなるかに思えたが、それは結果的には良い方向に変化したようである。

その中で私は環境問題の解決への努力を次世代に受け継がせていく「環境教育」の課題について研究に取り組んだ。環境問題、環境教育の背景や枠組みについて研究したほか、日本国内や中国・韓国の環境教育についての取組や実践事例の調査も実施した。それらはセンターの

出版物「環境共生社会学」の1章として執筆したほか、ワークショップ等の機会や国内・国外の研究会等において発表した。

それらの研究を進める中で考えたことは、環境教育の課題を地域の環境問題の中に具体的に結びつけていくと、必然的に科学教育と開発教育の課題と重なり合ってくるということである。

環境教育自体も大変発展・普及した分野であるが、21世紀の世界の中でより効果的に環境教育を進めていくためには、科学教育、環境教育、開発教育を結合させた課題の把握が重要性を増していくと考えている。学校教育や生涯学習の課程の中に、このような発想による教育（学習）活動や実践活動を普及させていく必要性を感じているところである。

公開講座 世界の経験をふるさとに

日時：2005年12月3日(土)

13:00 開場

会場：東洋大学板倉校舎 1101 教室

板倉町泉野 1 丁目

(東武日光線板倉東洋大前駅下車

徒歩 10 分)

挨拶：13:30-13:35 松尾友矩

(国際共生社会研究センター長・学長)

講演：13:35-16:30

レセプション：16:45-

☆入場無料：申し込み等は不要ですので、当日お気軽にご参加ください。

☆お問い合わせは、事務局までお願いいたします。

E-mail (orc@itakura.toyo.ac.jp)

電話と Fax：0276-82-9140

■ 演題および講演者

『センターの経緯』

北脇秀敏 (国際共生社会研究センター研究員・大学院国際地域学研究科委員長)

『アジア大都市圏とスラム』

坂元浩一 (プロジェクト1 リーダー代理)

『持続可能な環境社会の形成』

太田勝敏 (プロジェクト2 リーダー)

『地域開発における環境配慮』

橋本善太郎 (プロジェクト3 リーダー)

『まとめ：世界の経験をふるさとに』

藤井敏信 (プロジェクト1 リーダー)

『板倉の未来とセンターの発展への期待』

針ヶ谷照夫 (板倉町長)：予定

*講演者、演題は変更の可能性があります。